



バックキャスト思考で生み出されたライフスタイルの中にどのようなビジネスの種を見つけることができるか... (パネルディスカッション)



東北大学大学院環境科学研究科 准教授
古川 柳蔵氏

「新しい暮らしのかたちとビジネス—NT研究会によるトライアル—」

「新しい暮らしのかたちとビジネス—NT研究会によるトライアル—」

電池は必要最低限の大きさにしてかつ自然エネルギーを最大限に活用するようにし、足りなくなったら交流の電気

自然の「技」とマツチング

新価値観はかる物差しを

現在、「90歳ヒアリング」という手法を使ってライフスタイルを研究している。戦前に20歳になった大正11年生まれの高齢者は今90歳で、自然とともに生きてきた昔の暮らしについて聞いている。今からは想像できないほど自然とも共生するための知恵や技術、仕組みがみつかる。そこから持続可能な社会がどういう条件で作り上げられているのかを探っている。

ただで30%節電できる。洗濯物を乾燥機を使わずに干干したり掃除機の代わりにほうきを使ったり、家族が個別の部屋で過ごすのではなく、一つの部屋に集まって家族みんなで過ごす。簡単なライフスタイルを少し変えることで節電で環境負荷が下がる。

さらに、環境負荷を下げる取り組みとして、自然エネルギーを活用する方法がある。太陽光発電は通常、直流を交流に変えるため変換ロスが生じる。そこで、直流をそのままリチウムイオン電池にため、直流で駆動する発光ダイオード(LED)照明に使用できるようにする。実際に東北大学で技術開発を進めている。

電池は必要最低限の大きさにしてかつ自然エネルギーを最大限に活用するようにし、足りなくなったら交流の電気

ライフスタイルを描く

パネルディスカッション

全体最適の意識必要



亀田氏



木村氏

木村 マスローの欲求段階説をもとに、生活者のニーズを五つに分けてみた。「エコロジー」、「健康・ウェルネス」、「防犯・防災」、「ライフスタイル」とあるが、これらをハランスよく取り組むのがよいと思う。ただ、軸足をどこに置くかが重要で、低環境負荷で全体を押さえるイメージを持っている。

古川 チームを組むというのは有効だ。自分だけでは限界があり、他の人から新しい考えや刺激が得られる。蓄積も重要だ。ライフスタイルデザインを継続して行っていくと、自然とライフスタイルが突然つながる状況が訪れると思う。



伊東氏

知恵を結集 商品開発

伊東 私たちは戦後、成長や成功を通じて、豊かさや幸せを実感してきた。そこに環境制約の問題を突きつけられると「環境負荷が低い」「イコール」「幸せ度が低い」といった意識に陥る。ところが環境負荷が低くても幸せ度が高い、といった体験は過去の記憶の中にぼつぼつある。それを浮き彫りにすることがライフスタイルデザインで大切ではないか。

伊東 オランダの家電メーカーはアフリカの低所得者層向けの商品開発で工夫している。さまざまな職種の人を現地に派遣して生活させ、課題を解決するよう商品やアイデアを考えるやり方をとっている。技術、デザインなどいろいろな機能を持った人たちがチームを組み、ライフスタイルや商品を開発することが重要ではないか。



環境制約下における豊かさを考える

木村 私の場合は昔の住宅から、その良さを思い出すことがカギだと思っている。具体例として東京・国立にある実験住宅を紹介したい。そこには縁側を設けた。縁側は暑さ寒さの断熱効果だけではなく、自然を身近に感じる豊かな空間であることがわかる。玄関に設けると、近所の人が立ち寄って話をするコミュニティの場にもなる。

亀田 なぜ、そのような発想に至ったのですか。木村 実験住宅の見学者が「これがいい」と思う機能を調べるため、アンケートをした。90%の方が「縁側がいい」と支持してくれた。年配者だけではなく学生もだ。おそろ日本人に備わっている自然観のようなものがDNAとしてあるのではないか。

古川 昔の人の知恵には多くの蓄積があり、昔の暮らしに学ぶという企業の姿勢はすばらしいと思う。親が子どもに繰り返し自然観を伝えていくことが重要だ。

亀田 自然からエッセンスを取り出してライフスタイルを描くことは、業種によって難易度が異なります。そこで自然ながら学んだことを関連づける力が必要で



家は、太陽光で発電して。
私は、月の光で充電します。

住まいは進化してゆきます。とくにエネルギーの課題に向けて。太陽光や燃料電池で、エネルギーをつくる「スマート」な家へ。けれど、家にはその機能以上に、たいせつな役割があります。家は、ひとの暮らしそのもの、喜びと安らぎの場所だから。

いつまでも変わらない快適と安心、変えてゆく未来への責任。たとえば、内と外とがつながる空間を、新しい技術でつくります。積水ハウスの提案する住まいづくりは「SLOW & SMART」。さあ、ゆっくり生きていきましょう。未来の日々へ。

SLOW & SMART

ゆっくり生きてゆく、住まいの先進技術。